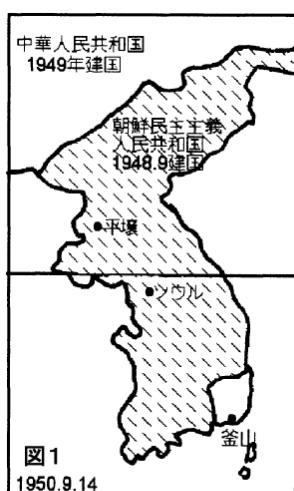


朝鮮戦争 1950-53

「冷戦下での熱い戦争」「米ソの代理戦争」

南北分断にいたった経過はNo.194参照。



- 1) 朝鮮民主主義人民共和国（以下「北朝鮮」と略す）攻勢期
1950年6月25日 北朝鮮が南北統一めざして大韓民国（以下「韓国」と略す）に侵攻し、北緯38度線を越え、朝鮮半島南端の釜山付近にまで迫った。

1950年9月14日までに、北朝鮮軍は、釜山付近を除いて全朝鮮半島を制圧！図1。
この間に、ソ連が欠席で拒否権を行使できないままの国連安全保障理事会は、北朝鮮の侵略と断定（1950.6.25）し、非難決議と国連軍の派遣を決定。
「国連軍」設置（1950.7.7）……実質はアメリカ軍 兵士と武器はアメリカ（一部に韓国陸軍）。指揮権もアメリカ。最高司令官は【1】。兵器を除く軍需物資の多くを日本で調達……日本は空前の「特需景気」

- 2) 「国連軍」攻勢期

1950年9月15日 「国連軍」【2】（インチョン）に上陸。

上陸用舟艇の操縦には地形を熟知した日本人船員多数が動員された。※1

1950年11月26日までに、北朝鮮軍は壊滅的打撃を受け北部の山岳地帯を確保するのみとなつた。図2。

- 3) 中国の介入

1950年10月25日 人民義勇軍を主力として北朝鮮軍も南下。「国連軍」後退開始。

1951年2月1日 国連総会は中国非難決議を採択

これは局地的な戦争であり、第三次世界大戦勃発の危険さえあつた。1951年4月11日、トルーマン大統領、マッカーサーを解任。中国本土空爆と原爆の使用を主張したからだとされる。マッカーサーのアメリカ議会での退役演説「…老兵は死なず、ただ立ち去るのみ…」

- 4) 【3】付近で戦線膠着。図3。

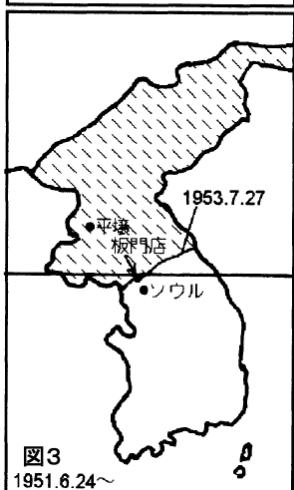
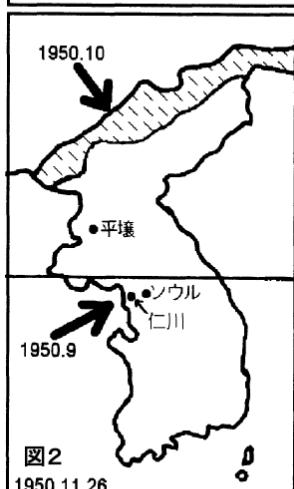
1951年7月10日 開城（ケソン）で休戦会談はじまるも、その後約2年間、激しい戦闘が続いた。

- 5) 休戦

1953年7月27日 【4】で休戦協定に調印。南北の分断は固定化された。※2

※1 アニメ映画『ククリコ坂から』（佐山哲朗原作 2011年スタジオジブリ）では女子高生の松崎海（メル）は淡い恋心を抱く風間俊と実の兄弟と知らされるが、実は俊は父が友人の子をひきとったが育てられず他家に養子に出したものと判明。海の父がなくなった原因が朝鮮戦争という設定。伝統ある私学の独特的な雰囲気の中で展開するラブロマンス。著者は、設定上の海より5歳年下だがほぼ同世代同地域。

※2 著者が高校生の頃、地球上に民族分断国家は3つあった。南北朝鮮・南北ベトナム・東西ドイツである。残る一つも、必ずや遠くない将来統一されると信じている。



アメリカの占領政策の転換と日本

- 1) 1948年（中華人民共和国成立直前、朝鮮戦争勃発の予感あり）にアメリカの対日占領政策は、非軍国主義化から「反共の防壁」として日本を再建する方向に転換した。公務員の争議権を奪い、戦犯裁判を緩和し、労働運動を弾圧※3 した。

- 2) 【5】（1951年締結、52年発効）。これによって日本は独立を回復。朝鮮・台湾・南サハリン・千島列島※4 を正式に放棄した

- 3) 【6】（1951年締結、52年発効）により米軍の駐留を認め、軍事基地と関連施設の存続を認める。沖縄はアメリカの施政権下におかれる。

- 4) 再軍備……警察予備隊（1950）→ 保安隊（1952）→ 自衛隊（1954）

台湾の【7】と国交樹立（1952、日華平和条約）

2) 3) 4) はすべて朝鮮戦争の最中である。

※3 労働運動弾圧の例として、1949年の下山（国鉄総裁殺害事件）・三鷹（無人電気機関車暴走事故）・松川（線路破壊工作による脱線・転覆事件）の3件が有名。いずれも鉄道がらみで、日本共産党の党員が犯人扱いされた。特に松川事件は長期の裁判闘争になった。（「1949年の暗い夏」）

※4 日露国境画定についてはNo.156参照。歯舞・色丹は千島列島に含まれない。

「封じ込め」から「巻き返し」へ 転換=1953年

【8】政権（1953～61年）は朝鮮戦争を休戦させる一方、先代トルーマン以来の「封じ込め政策」以上に強硬な反共政策に転換した。なわち、1953年、【9】Roll-back Policyである。ダレス国務長官が提唱した。具体的には、世界各地の友好国と軍事同盟を結び、軍事援助を行うこと。

日本の国際連合加盟

ソ連との国交回復（1956年10月、日ソ共同宣言）によって可能となった。1956年12月の国連総会で加盟は承認された。

世界化する冷戦体制

冷戦はヨーロッパで始まった。そして、それは集団的安全保障体制（軍事同盟）の整備という形をとて全地球に広まつた。ここでは出題されやすい西側のそれだけをまとめた。もちろん、ソ連側も同じようなことを行っているがワルシャワ条約機構が1955年発足したことだけ覚えればよいだろう。ちなみにNATO発足は1949年。

- 1) アメリカ合衆国とアジア・太平洋地域 「封じ込め政策」は1947～1953年。

1949年、中華人民共和国成立、1950年、朝鮮戦争勃発、という緊迫した状況の中で、アメリカ合衆国はここでも、ソ連と中華人民共和国の影響を排除する目的で「封じ込め政策」を展開した。1953年以降は「巻き返し政策」という更に強力な反共政策に移行。

- ①アメリカ合衆国とフィリピン 1951年 米比相互防衛条約締結

- ②アメリカ合衆国とオーストラリア・ニュージーランド 1951年 【10:】 (ANZUS) 締結。

→ 1986年、ニュージーランドが事実上脱退し、解体した。

- ③アメリカ合衆国は、1955年11月、トルコ・イラク・イギリス・パキスタン・イランの5カ国で【11:】 (METO) を成立させた。厳密には既存のトルコ=イラク相互防衛条約（1955年2月）にイギリス・パキスタン・イラ

ンが加わったもので、NATO、SEATOとも連携する対ソ軍事同盟である。本部はイラクのバグダード。

→ 1958年、イラク革命が勃発、王政が倒れてイラクは脱退。1959年8月、残4カ国で中央条約機構（CENTO）を再編成し本部もアンカラに移った。しかし、イラン=イスラーム革命（1979）が起き、解消された。

- ④アメリカ合衆国と日本 1951年 【12:】 締結 / 1960年 激しい反対運動があつたが、「日米相互協力および安全保障条約」に改訂、双務性強化。 / 1970年以降自動延長状態。 戦争放棄の日本国憲法（前文と第9条）との関係、沖縄の米軍基地などで大きな矛盾を抱える。

- ④アメリカ合衆国と大韓民国 1953年 米韓相互防衛条約

- ⑤アメリカ合衆国は、1954年9月、【13:】 (SEATO) を発足させた。 → 1977年解消された。

- ⑥アメリカ合衆国と台湾は、米華相互防衛条約締結。

- 2) アメリカ合衆国とラテンアメリカ諸国 アメリカ大陸への「共産主義の浸透」を防ぐことが目的。

1947年、アメリカ合衆国とラテンアメリカ諸国は、①米州共同防衛条約（リオデジアネイロ条約）締結

1948年、②米州機構（OAS）発足 アメリカは①②でラテンアメリカ諸国を西側陣営に組み込む。

- 3) 現代では、軍事同盟は全地球的には解消の方向にある。

核兵器開発競争と平和運動

No.190の要約

- 1) ソ連の核保有は予想外に早かった。

アメリカの原爆完成=1945年7月16日、ソ連の原爆完成は【14: 年】。わずか4年後！

アメリカの水爆完成=1952年、ソ連の水爆完成は【15: 年】。わずか1年後！

アメリカの人工衛星打ち上げ成功=1958年 ソ連は 1957年！ なんと…負けた！

【16:】 (ICBM) 技術の完成で、両国は「相互確証破壊戦略」を確立。良心的学者たちが心配したように、米ソはお互いに人類を何度も滅亡させうるほどの核弾頭を持って向かい合う恐怖の均衡の時代に突入した。

- 2) 米英ソ仏中などの核実験は地球環境を汚染し新たなヒバクシャを生み出した。

1954年3月1日の第五福竜丸事件

- 3) 平和運動

1955年、広島と長崎で原水爆禁止世界大会が開催された。

1955年、核戦争の脅威を警告する【17:】 宣言が出された。

1957年、【18:】 会議に集まった世界の科学者が核兵器の禁止を訴えた。

かつて核兵器の廃絶は「夢」や「理想」にすぎなかったが、今や現実的課題となりつつある。

《参考楽曲》『Long Time Ago』(タイマーズ)、『青い空は』、『ヒロシマの有る国で』 いずれもYouTube等で試聴できる。

核兵器の拡散・核事故

国名	原爆保有	水爆保有
アメリカ合衆国	1945	1952
ソ連邦	1949	1953
イギリス	1952	1957
フランス	1960	1966
【19:】	1964	1967
インド	1974	—
【20:】	1998	—
朝鮮民主主義人民共和国	2006	—
イスラエル	推定保有	—
イラン	?	—
日本	非核三原則	

出題例（正誤問題）

インドとパキスタンが相次いで核実験を行ったのは1950年代
である。
誤文 左表参照

主な原発事故 No.207で詳述

ウインズケール軍用原子炉	イギリス	1957
スリーマイル島原発	アメリカ	1979
ラ=アーグ再処理工場	フランス	1980
【21:】原発	ソ連	1986
福島第一原発	日本	2011

水素爆弾とは、【22:】を起爆装置として用い、核分裂反応で発生する放射線と超高温、超高压を利用して、水素の同位体の重水素や三重水素（トリチウム）の核融合反応を誘発し莫大なエネルギーを放出させることにより、原子爆弾とは比較にならない破壊力を持つ。たとえば、1発で関東平野全域が居住不能になる。ICBMの弾頭はすべて水素爆弾。